

「 土砂災害から身を守るために 」

福岡県 北九州市立篠崎中学校 1年 ^{いわや}岩谷 ^{かなた}奏汰

最近、テレビや新聞で災害のニュースを多く見ます。その中の一つに土砂災害というものがあります。これは、さまざまな原因がありますが、土砂が雨などにより流れる、または崩れ落ちるなどのことをいいます。この災害によって多くの人が亡くなったり、いろいろなことに影響がでたりします。では、どうすれば身を守ることができるのでしょうか。

土砂災害から身を守る対策は、大きく2つあります。一つは五感で感じるということです。土砂災害には前兆現象というものがあり、これを人間の五感で知ることができるのです。この前兆現象は大きく3つに分けることができ、それぞれ土砂災害の種類が違います。

一つ目は、音を聞くことです。石と石のぶつかる音、山鳴り、ゴロゴロという雷のような音、地鳴り、ゴーッというジェット機のような音、木の裂ける音、木が揺すられるザワザワした音、これらは土石流が発生する時、または流下している時の音の可能性ががあります。二つ目は、臭いです。物の腐った臭い、土臭い臭い、これらは山崩れが発生している可能性ががあります。三つ目は、見ることです。雨が降っているのに沢の水が止まった、沢の水が急に増水した、近くの崖から小石がパラパラ落ちてきた、地震のような揺れが急に起こった、これらは山崩れや地滑りが発生している可能性を示しており、崖から小石が落ちるのは崖崩れの可能性を示しています。これらの前兆現象は、目で見る、耳で聞く、鼻で嗅ぐという人間の五感で知ることができます。いつでも異常を知れるように五感を研ぎ澄ましておきましょう。

二つ目は、避難の仕方を知っておくことです。あらかじめ知っておくことで落ち着いて避難でき、災害から逃れることができます。では、安全に素早く避難するにはどのような方法があるのでしょうか。まずは、ハザードマップを使って危険なエリアを把握します。ハザードマップとは、洪水・土砂災害の危険度が高い地域を色分けしている地図のことです。インターネットで見ることができ、簡単に自分たちが住んでいる地域の危険なエリアを知ることができます。次に、避難方向を確認します。ハザードマップで危険なエリアを見ることで避難する方向を把握することができます。川が複雑に流れているようなところや、土砂災害が起こる可能性がある地域だと慎重に逃げる方向を把握する必要が出てくるので、一度家族で話し合ってみましょう。このとき、通行止めになる恐れがある道路を調べてみるとよいでしょう。逃げる方向だけを決めておいても、いざという時に逃げたい道が使えないというこわい状況に遭遇する可能性があるので逃げる道順も複数把握しておくといいと思います。このように事前に調べておくことで落ち着いて避難でき、身を守ることができます。

では、日ごろから、自分たちができることはないのでしょうか。常に災害から身を守ることを意識することで、いざというときにどうすればいいのか素早く行動することができるようになります。そのためには、近くの山や崩れやすい場所をしっかりと把握しておくこと、土砂災害が起こる時にはたくさんの雨が降っていることがあるので、川や用水路の場所を知っておくこと、などと自分が住んでいる地域の危険な場所が分かっていることが大切です。また、水や保存食、防災グッズなどの物を準備しておき、いざというときにすぐに持っていけるように家族全員が置いている場所をしておけるようにしましょう。

私の家は山に近くはないですが、土砂が流れ落ちているところや、土砂災害警戒情報が自分たちの住んでいる地域に出ていることを見たことから、身近な物なんだということを知ることができました。避難場所や避難の仕方など、家族としっかりと話したことがないので、一度話し合ってみようと思います。今回調べて学んだことを家族や友人、身の回りの人に話し、地域の人たちの防災意識を高めていきたいです。